

「お茶フクロウ(6)」

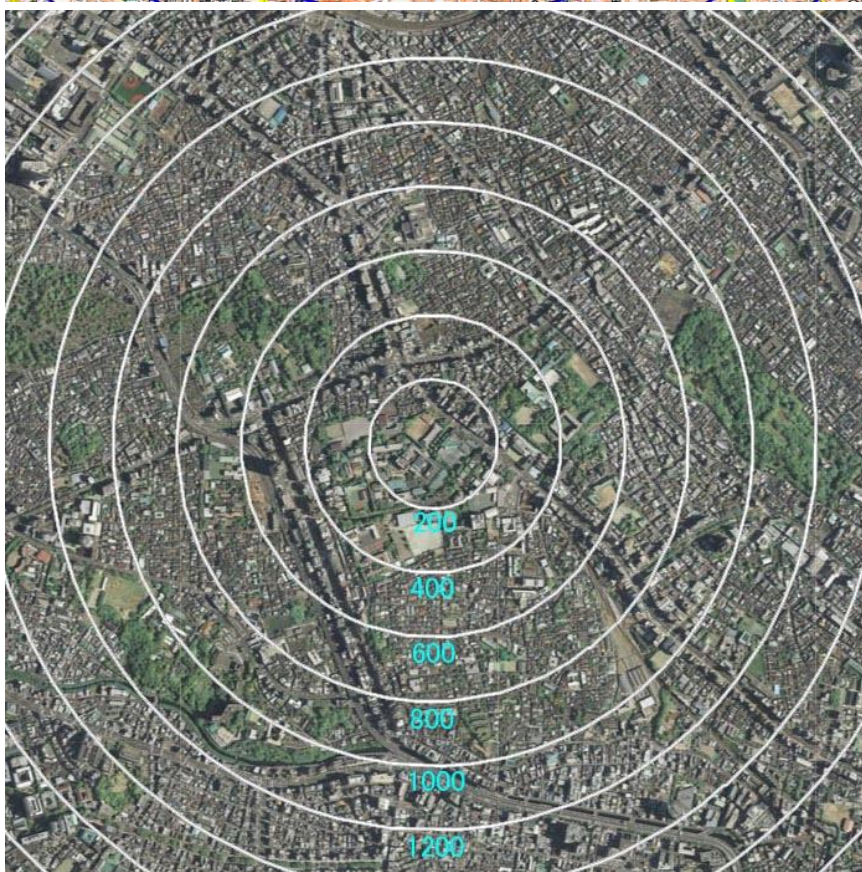
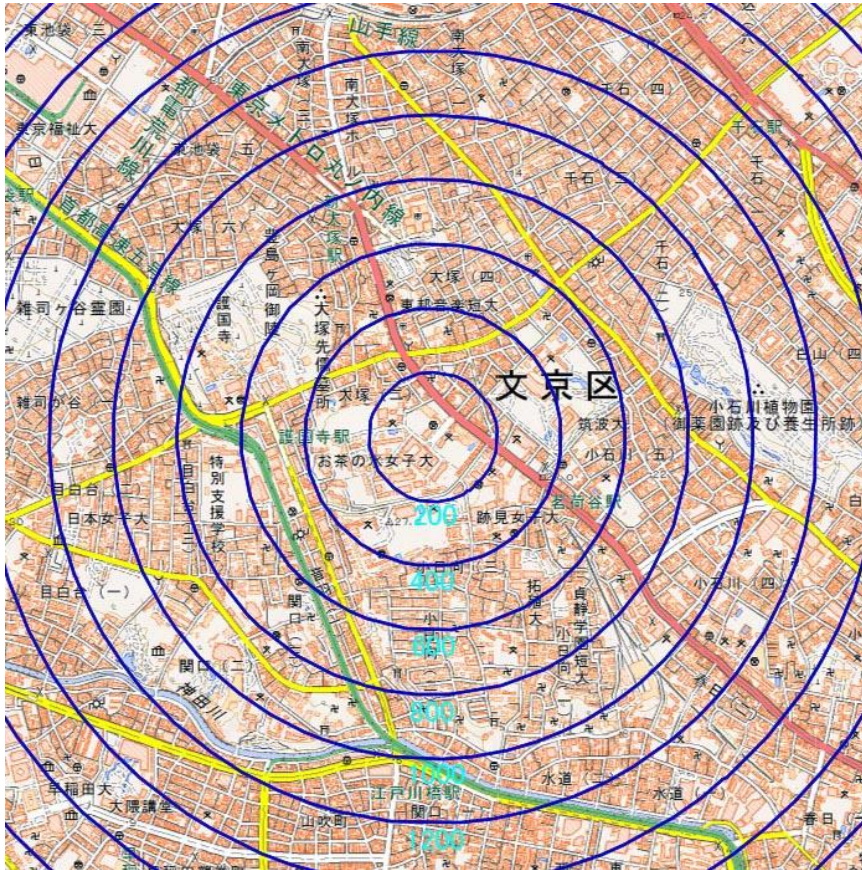
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

大学構内で、子どもたちとフクロウのペレット探しをしたが、だめだった。そう簡単に見つかるとは思っていなかったが、やはりその通りだった。とりあえずペレット搜索は打ち切り、私はその声の主のフクロウが、どこから来たのかを考えてみた。

左図は、お茶の水女子大学を中心にした地形図と、



同区画の航空写真である。(国土地理院提供、田中作図) 同心円は、フクロウの声が聞こえた地点(イチョウ並木)を中心に、水平200mごとに描いている。半径1kmの範囲に、まとまった緑地(樹木の多いある程度の面積がある場所)が複数存在することがわかる。

一番近いのは、すぐ東側の「教育の森公園・占春園一带」だ。放送大学や、筑波大学附属小学校もこの中にある。緑が多いが、茗荷谷駅に近く、夜でも人通りが多い。早朝からラジオ体操の団体がスピーカーを鳴らしている。私がフクロウだったら、ここで生活はしたくない。

東に1kmほどの場所には、小石川植物園がある。ここは、専門家もフクロウ営巣地として候補にあげている場所だ。植物園といっても園内は比較的環境が

風致され、巨木も多い。日中は入園者が多いが、夜間はほぼ無人になる。私は一度夜間に入園したことがあるが、都内とは思えないほど真っ暗で静かだった。植物園は大いに期待できる候補だろう。

しかし、私が一番目をつけているのは、小石川植物園ではない。北西に位置する「豊島ヶ岡墓地」である。豊島ヶ岡墓地は「豊島ヶ岡御陵」とも呼ばれ、天皇・皇后を除く皇族やその親族の墓所である。一般の人は立入禁止で、普段は昼も夜も、ほとんど人が立ち入ることはない。護国寺のとなりのかなりの面積を占めていて、森に覆われている。距離もフクロウの声を聞いたイチョウ並木から、直線距離でわずか500m。フクロウは猛禽類の中では小型だが、500mなら一飛びの距離にちがいない。